

# 事業所自己評価シート

## 職員による自己評価

### 1.環境面

・活動スペースが高学年、中学生、高校生には狭いのではないか。

### 2.児童への支援内容

・活動には児童の主体性、向上心を高める遊びをとりいれている。  
・体を動かすことだけでなく、指先を使う製作もしている。

### 3.関係機関との連携

・学校や他サービスなどの情報共有。  
・ミーティングで児童の様子や支援内容の共有。

### 4.保護者への説明責任・信頼関係

・活動時間のほとんどが体を動かす自由遊び主体なため、保護者に支援の詳細を伝えきれていない。伝達のためのツールを考える必要がある。  
・H Pの改修、整備。

### 5.非常対応

・避難訓練の回数の見直し。  
・不定期に行っている防災訓練の見直し。  
・防災マップの作製。

## 保護者による評価

### 1.環境面

・もう少し広いとよい。  
・クールダウンのスペースの確保。  
・一日あたりの人数が多いのでは？

### 2.児童への支援内容

・工夫をしながら活動をしている。  
・ここでの活動を楽しく話してくれる。  
・活動内容が活発なため他児との接触行為が多い。

### 3.事業所からの情報発信

・活動内容の報告が不十分。  
・児童の様子を見たい。

### 4.非常対応

・説明を受けてない。

## 事業所内での分析

### 【共通点】

・保護者への活動の様子、内容の報告が簡素化になっている  
・避難訓練、災害等のマニュアルの周知がされていない  
・楽しく身体を動かす事ができている

### 【相違点】

・活動室は国の設備基準である児童一人あたり 2.47 m<sup>2</sup>以上で集団活動が行える死角のない指導員の目が届く空間になっている。  
・定員 10名に対し指導員 2人という国の人員配置基準を常に満たし、児童指導員教諭免許取得者、理学療法士と児童分野での経験の専門性の備えたスタッフの配置

## 分析・検討結果

### 事業所の強み

- ・理学療法士からの療育プログラム
- ・向上心を高める身体への療育の取り組み
- ・子どもが通所を楽しみにしている
- ・感覚統合療育のための室内遊具が多くある

### 事業所の改善点

- ・保護者への日々の活動プログラム、活動の様子の伝達方法
- ・非常時や感染症についての周知が十分ではない
- ・よりよい環境での療育スペースの確保

### 事業所の改善への取り組み

- ・障害特性に応じたクラス分け、個別療育プログラム、少人数でのグループプログラムの実施。
- ・非常時のマニュアルの周知、定期的な訓練実施について、説明が十分でないため保護者のご理解を頂けるよう改善に努める。
- ・毎年保護者会を開催する予定が、今年度はコロナウイルス感染予防のため中止になり、保護者に対し活動内容、運営関係の報告が不足し、保護者対応等の基礎的スキルを構築するむずかしさを感じたため次年度からは保護者と蜜に情報共有ができるようなツールの改善および、スタッフ間での子どもの様子や個別支援計画書の共有化を図る。
- ・大型の療育遊具があるため、スタッフは細心の注意を払い安全面の確保を実施する。
- ・スタッフは支援の質の向上を図るため、内部外部の研修に参加をする。

担当者：猪狩 昌弘